

熊谷被告、法廷に姿見せず！

――無人の被告席に示される “敗北表明！！”

9月5日、大阪地裁で「熊谷裁判」第1回口頭弁論が開催された。

しかし熊谷被告は、弁護士に代理人を依頼せず、本人も姿を見せず被告席は空席。あからさまにファイティングポーズを放棄した姿勢を露わにした。そして、熊谷本人がファイティングポーズを取らないことから、JR総連・東労組等各単組も「熊谷裁判を闘うぞ！」とも言えず完全に沈黙、傍聴参加も一切取り組まなかったのである。

かつて、M組から「JR総連書記長」に祭り上げられ、JR総連の先頭で東海労破壊を行ってきた熊谷被告は、仲間であったM組から見捨てられ、己の信念もプライドも打ち砕かれ、最早法廷に立つことすら放棄した。それは、M組・JR総連の東海労破壊の闘いの「敗北の証」を示す事態である。

「熊谷裁判」と「津崎裁判」との併合決定！

同日の90分後、15時30分より行われた「津崎裁判」第5回口頭弁論でも、被告・津崎側の動きは空虚さを露呈した。傍聴抽選参加者は15名で実際に入廷したのはわずか8名。裁判参加人数は回を追うごとに減少し、今回の参加者は、JR総連は法対責任者の副委員長と貨物・西労出身の3名、そして、西労は本部役員限定の5名、残りは貨物労組関西中心の7名だけ。JR総連全体で津崎被告を支えると言いながら、実際には、貨物労組関西とJR西労に取り組みを押し付け、主要単組のJR北・東労組は参加者ゼロで知らんぷり、実に腰の入らない“JR総連が一丸となつての闘い”なのである。

今回、裁判長は、「熊谷裁判」との併合を提起。津崎被告の代理人・北村弁護士は「お任せします」と弱々しく対応。まるで被告代理人は、この裁判を一刻も早く幕引きしたい姿勢を曝した。

今後の展望――いくら逃げ回っても逃げきれない！

熊谷被告は、今後も裁判から逃げ回り法廷に出廷することから逃げ回るのであろう。

しかし、津崎・熊谷両人は、被告であり必ず証言台に立つことになる。どこまで逃げても、証言台の前で、真実を明らかにすることからは逃れられないのだ。

「津崎・熊谷裁判」は、単なる渡邊・小林原告の名誉を守るための闘いではない

「津崎・熊谷裁判」は、嘘で塗り固めた「津崎文書」や熊谷報告によって、原告の渡邊さんや小林さんらを組織破壊者にデッチ上げ、私たち東海労を「除名」することを意図したJR総連（M組）の卑劣な行為を暴き出し、JR労働運動の再生をも展望した闘いである。

私たちは、JR総連、被告・津崎、熊谷と背後で糸を引くM組との黒い関係を暴き出し、東海労を組織破壊者に仕立て上げ、除名した攻撃を粉碎するまで、一步も引かない。

仲間と団結し、正義と誇りを胸に、完全勝利を掴み取るまで徹底的に闘い抜いていく！

【次回「津崎・熊谷裁判」第6回口頭弁論 期日】

 11月14日（金）15時～  大阪地裁809号法廷